

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	第2回津市屋内総合スポーツ施設設計検討委員会 (津市屋内総合スポーツ施設シンポジウム)
2. 開催日時	平成24年3月17(土)14時00分から16時30分まで
3. 開催場所	メッセウイング・みえ 2階 大研修室 (津市北河路町19-1)
4. 出席した者の氏名	委員) 木下委員、後藤委員、相沢委員、小椋委員、 野口副市長 事務局) スポーツ文化振興部部長 野呂 日建設計) 渡辺設計部長、小谷設計部長
5. 内容	津市屋内総合スポーツ施設シンポジウム 第1部 基調講演「これからのスポーツ施設に期待すること」 三重大学教育学部保健体育講座 後藤 洋子 教授 第2部 津市屋内総合スポーツ施設設計概要説明 第3部 フリートーク 元バドミントン日本代表 小椋久美子さん 第4部 パネルディスカッション「親しまれるスポーツ施設とは」 津市屋内総合スポーツ施設設計検討委員会委員 第5部 質疑応答
6. 公開又は非公開	公開
7. 傍聴者の数	117名
8. 担当	津市スポーツ文化振興部スポーツ振興課企画管理担当 電話番号 059-229-3375 E-mail 229-3373@city.tsu.lg.jp

・議事の内容 下記のとおり

<p>日建設計(小谷)</p>	<p>皆様、こんにちは。</p> <p>本日は足元の悪い中、多くの方々にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>只今より、津市屋内総合スポーツ施設推進事業シンポジウム「新たなスポーツ施設のあり方」を開催いたします。</p> <p>私、本日の司会進行を務めさせていただきます、本施設の設計業務を担当することになりました、株式会社日建設計の小谷陽次郎と申します。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>開会に先立ちまして、事務局であります津市スポーツ文化振興部の野呂部長より、本会の開催主旨についてご説明いただきます。</p> <p>野呂部長、よろしく願いいたします。</p>
<p>事務局 (野呂)</p>	<p>皆様、こんにちは。</p> <p>足もとの悪いなか、津市屋内総合スポーツ施設のシンポジウムに御出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>只今からシンポジウムの主旨について、説明をさせていただきます。</p> <p>津市は、10の市町村が合併したことにより、62ものスポーツ施設があります。しかし、それぞれの施設が小規模で老朽化してきているため、現状としては、少し大きな大会を開催しようと思っても満足できる施設がなく、古い施設をなんとか使っているといった状況でございます。</p> <p>そういった理由で、地域にある小規模な施設は、地域の核施設として活かしながら、拠点施設として大きな施設を整備していこうと考えました。</p> <p>特に、拠点となるべき津市体育館は、昭和41年に建設されたもので、まもなく50年が経とうとしています。施設自体かなり老朽化をされており、これ以上長くは使えないと思われます。</p> <p>津市の市民プールも昭和48年に建設され、かなり施設が傷んできており、毎年なんとか苦労しながら使っているという状況であります。</p> <p>もう1つは津市の施設ではありませんが、三重県と津市で建設・運営をしている、三重武道館という施設があります。この施設もかなりの年数が経っておりますので、老朽化が著しく、また駐車場が</p>

<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>とても小さい為、大きな大会を開催できないといった現状がございます。</p> <p>これらの施設に代わる新しい施設として、屋内総合スポーツ施設をつくるという計画を進めてきました。</p> <p>昨年9月には、メッセウイングも活かしながら、建物の北側に新しい総合体育館施設をつくる計画をまとめました。</p> <p>事業につきましては、合併特例債という有利な財源を活用し、平成27年度末に施設を完成させ、28年度から共用を開始するという計画で進めております。</p> <p>設計につきましては昨年末に、日本で有数の設計コンサルタント会社に参加していただき、設計プロポーザルを実施いたしました。企画・技術提案書をもとにプレゼンテーションを行い、そのなかでも株式会社日建設計の提案が最優秀ということで、今年から契約して現在、基本設計に着手しております。</p> <p>今月末までに、ある程度の基本計画をまとめるつもりです。</p> <p>基本設計では、施設の配置や大きさ等、基礎的なことをすべて決めていきます。皆様にとって一番重要な部分だと思っておりますので、今日のお話を聞いていただき、ご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>各方面でご活躍なさっている方々をお願いして、設計検討委員会をつくり、設計を進めさせていただいております。本日は、設計検討委員会の皆様をお呼びして、シンポジウムを開催させていただきました。多方面の方のご意見を聞きながら、充実した設計をまとめていきたいと思っております。</p> <p>最後の方に、皆様からのご意見をいただく時間をとっておりますので、いろいろご意見をいただき、進めていきたいと思っております。</p> <p>本日は、今後できる総合体育館がどういったものになるのかということを知っていただくとともに、利用される皆様からのいろいろなご意見をいただき、今後の参考にさせていただきたいと思っております。</p> <p>どうか、よろしく願いいたします。</p> <p>それから、本日お世話になります、設計検討委員会の皆様、よろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
------------------	--

後藤委員	<p>本日のシンポジウムは、プログラムでもご案内しております通り、第一部を三重大学の後藤先生による基調講演、第二部を津市屋内総合スポーツ施設の現段階における設計概要説明、第三部を北京オリンピックバドミントン日本代表の小椋久美子さんによるトークショー、第四部を津市屋内総合スポーツ施設設計検討委員の皆様によるパネルディスカッション、最後に全体を通じての質疑応答といった形で進めさせていただきます。</p> <p>では、最初に基調講演をお願いしたいと思います。</p> <p>基調講演は、「これからのスポーツ施設に期待すること」といったテーマで、三重大学教育学部保健体育学科の教授でいらっしゃいます、後藤洋子先生をお願いいたします。</p> <p>後藤先生は、運動方法学が専門でいらっしゃいまして、「子どもの体力・運動能力の発達に関する研究」や「体操・ダンスの運動教材及び指導法に関する研究」などを研究されております。学生に対しては、体育実技指導もされています。</p> <p>また、本屋内総合スポーツ施設の計画においては、基本構想段階から検討委員を務められ、本計画の検討には施設を使う側、スポーツをする立場での専門家として大変深い関わりをもってご指導・アドバイスをいただいております。</p> <p>本日は、新しい屋内総合スポーツ施設の計画をより具体化していくにあたり、重要なアドバイスをいただけるものと考え、基調講演をお願いいたしました。</p> <p>では、後藤先生、よろしくをお願いいたします。</p> <p>三重大学の後藤と申します。よろしくをお願いいたします。</p> <p>ご紹介にもありましたように、私はこの新しい屋内総合スポーツ施設の基本構想の最初の段階から、委員会で協力させていただいており、そういった立場から、調べてきたことをお話できればと思っております。</p> <p>新しいスポーツ施設には、全国的な大規模な大会が開けるような機能を盛り込んでいくことが大事だと思います。ただ大規模な大会は、毎日行われるわけではありませんので、日常でも市民の多用なスポーツ活動にしっかり対応でき、また皆様が気軽に健康づくりができるような、両方の側面を持った施設にすることが、根本的なコンセプトであります。</p>
------	--

「全国レベルの大規模な大会」につきましては、小椋選手が見えていらっしゃると思いますので、後ほどトークショーでもお話が伺えると思います。

私からは、「市民の多用なスポーツ活動」について、お話をしたいと思います。

ドイツは、世界有数のスポーツ大国であり、スポーツ政策の先進国といわれています。そこで、我が国はいろいろなスポーツ政策や活動をするにあたって、ドイツの組織をモデルにします。

例えば、ドイツのスポーツ少年団の組織づくりや、ドイツスポーツユースリーグといったものをモデルにして、日本でもスポーツ少年団という組織がつくられました。

この組織は、スポーツを通じて、子どもたちの健全な育成を図るというもので、日独同時交流プログラムにより、四日市でもドイツの少年団の子どもたちを受け入れております。また、日本の子どもたちも、ドイツのさまざまな地域に行き、さまざまな施設の見学をしたり、ゲームに参加するといった活動をしています。

もう1つ、最近広がってきております総合型地域スポーツクラブも、ドイツのスポーツフェラインという何百年と続いている伝統的な組織をモデルにしています。

ちなみに1985年、ドイツの人口約9,000万人中、2,630万人の約30パーセントの人たちがスポーツクラブに参加していましたが、日本では10数パーセントしか参加していませんでした。この結果からも、多くのドイツ人がスポーツクラブを市民スポーツとして活用していたことがわかります。

ドイツが、スポーツ大国と呼ばれるようになった背景には、ゴールドンプラン（黄金計画）、第二の道という政策が関わっております。

ゴールドンプランとは、1960年から15年計画で西ドイツの公共の運動施設を整備していこうといった施設整備計画の政策であります。15年間で建築費173億マルク、日本円にすると1兆7,000億円という巨額の予算をつぎ込んで施設整備に投資しました。日本では、今年（2019年）のスポーツ関連予算では190億円、ドイツの約10分の1になります。1990年に東西ドイツが統一し、東ドイツのスポーツ施設を整備するため、西ドイツの大人の住民1人あたり1万円に税金をかけ、東ドイツのスポーツ施設を整備しました。それだけ巨額の費用を投じて施設整備を行いました。

また、施設を整備しただけではなく、スポーツのプログラムや指導者を養成し、一般の方が自由にスポーツを楽しみ、生活を豊かにする健康体をつくるためのスポーツ活動を行える環境を目指して、プログラムの整備をしていきました。スローガンは「スポーツを人生の良き伴侶に」ということで、日常生活の中にスポーツを位置づけようといった政策がつけられました。

その後、トリム運動が行われました。

当時のドイツでは、スポーツフェラインは、トップアスリートの育成が中心でしたが、一般の人が参加できるようなコースを設け、「第二の道」が整備されました。それとともに、スポーツクラブに参加しなくても十分に運動やスポーツ、身体活動が実践できるようあり方が、トリム運動となっています。

日本では、トリム運動の一環として、フィールドアスレチックという野外運動用施設で、散歩しながら運動ができ、体を調整できるような広場があります。トリム運動とは「人間の体の調子を整える運動」を唱える運動で、この背景には、健康的な市民生活による医療費の削減があります。こういったドイツの様々な政策を今回の施設でも推進していきたいと思っております。

市民スポーツの発展のためには、施設整備といったハード面と、プログラムの現況や、指導者の養成、市民がどのような活動ができるのかといったソフト面の両面を考えていく必要があると思います。

また、施設を整備するだけでなく、市民の方にも積極的にスポーツに参加しようという意識が必要です。

運営面では、受益者負担という考え方が必要であると思います。例えば、現在でも我々の中には、教育界の知育偏重という考え方が残っており、津市は日本一の就塾率であります。しかし、学習面に対しては意識が高い親御さんでも、日常的に運動は欠かせない事であると知りつつも、スポーツに時間とお金をあまり費やさない傾向があります。市民が運動やスポーツに対する意識を少しずつ変えていく必要があると思います。

これからのスポーツ施設に対しては、地域住民の皆様の運動やスポーツ活動の拠点となるような施設が望まれます。例えば、芸濃町のアリーナでは日常的に、芸濃中学校やその辺の子どもが部活動で利用しています。

メッセウイングの周辺にもたくさんの学校がありますので、学校

<p>日建設計（小谷）</p>	<p>の部活動として共用できると、利用効率が非常に高くなると思います。また、子どもたちが足繁く施設に通うと、大人側も施設を利用してみようという意識が高まりますし、住民にとって身近なスポーツ施設に感じられるといった効果が得られると考えられます。さらに、住民の方が通ってくると、そこでコミュニティが形成され、さらに利用者の幅が広がり、豊かな人生に繋がっていくと思いますので、是非市民スポーツの拠点となるような要素を取り入れていただきたいと思います。</p> <p>もう1つ、地域住民の多用なニーズの変化に対応できる施設をつくるためには、今素晴らしいと思われる施設をつくったとしても、何年かすると我々の意識も変わってきますし、何年か経つと規定そのものが変わってしまうという可能性もあります。そういった際に、少し変えれば新しい基準や変化に対応できるような、フレキシブルな構造を持った施設が、末永く市民に愛される施設になっていくと思います。</p> <p>最後に、この新しい施設に「津市屋内総合スポーツ施設」ではない愛称を考えてほしいと思っています。例えば、北海道立総合体育センターは、「きたえーる」という名前が付いています。この愛称は、北にある施設で、鍛えて頑張れとエールを送るといった意味を込めて「きたえーる」という名前をつけました。こういった、親しみをもてる良い名称を考えていただきたいと思っています。</p> <p>以上でお話を終わりたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>ただいまのお話に関する質問等につきましては、先ほども申しましたが、本会の最後に、通しての質疑応答の時間をとらせていただきますので、参加者の皆様の中で何かございましたら、その時改めてお伺いしたいと思います。</p> <p>何卒ご了承くださいませよう、よろしく願いいたします。</p> <p>では、第二部に移ります。</p> <p>第二部では、プロポーザルの段階でのご提案内容、現在基本設計を進めている途中であります、施設計画と施設概要についてご説明差し上げたいと思います。</p> <p>設計の統括であり、管理技術者である、株式会社日建設計、設計</p>
-----------------	---

<p>日建設計（渡辺）</p>	<p>部門設計部長の渡辺豪秀から説明させていただきます。</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>日建設計の渡辺と申します。</p> <p>津市屋内総合スポーツ施設の設計業務を担当させていただくことになりました。現在基本設計の段階で、建物の骨格を決めていく、最も大切なプロセスの設計しております。予定では、今月いっぱいまでとめていくといった段階でございます。それでは、基本設計の途中ではありますが、現在進めております、建築計画の基本的なことについてご説明差し上げたいと思います。</p> <p>今回私どもが、津市様の新しい屋内総合スポーツ施設を計画するに当たりまして、基本となるコンセプトでございます。それは「新しい活力の溢れる津のシンボルづくり」です。</p> <p>今回検討していく上で、まず津市というのはどういうまちかということを考えました。</p> <p>元々、津市は、その名前の通り、海に面した港のまちでした。それが平成の大合併で、かなり山手の方にずっとまちが広がっていき、まさに海から山まで豊かな自然環境に恵まれた新しい「津」というまちになりました。</p> <p>そういった新しい津のまちを象徴する建物にするということが、1番今回の建物に相応しいのではないだろうかということで、豊かな自然環境に恵まれた津を象徴する自然の光であったり、自然の通風であったり、水であったり、そういった自然の恵みを活かした市民交流の場をつくることを、基本コンセプトにしております。</p> <p>今現在ございます、メッセウイングという展示場がございますが、それと連続する形で建物づくりをするということで、まずはこのメッセウイングのかまぼこ状の屋根に繋がっていくような形で、アーチ状の屋根を連ねた、津を象徴する景観をつくりたいと考えております。</p> <p>津を象徴する景観というのは、伊勢湾に面してまちがあり、さらに山手の方にずっと山が連なっていくといった、土地性を持っております。これに対して、マリンプルーをイメージしたメッセウイングから、繋がっていきます。新しい総合体育館を山と見立て、メッセウイングと体育館全体で津のまちを表現するという考え方でございます。</p> <p>一方で、体育館を正面から見ますと背後に、長谷山や、経ヶ峰と</p>
-----------------	--

といった、津の市民の方々に親しまれるハイキングコースがあったりする山がございます。それらの山の形にも、なぞられるような形で、津の市民にも親しんでいただけるような、形ができるのではないかと考えております。

これが、全体の空から見たイメージ図でございます。今現在、こういった形でメッセウイングがありまして、それに繋がる形で4つの大きな屋根がございます。それぞれこれがメインアリーナ、サブアリーナ、それから武道場と弓道場、それからプールがございます。

一部、屋上庭園がある棟に、フィットネスのジム、事務所といった施設が入ります。

そして中央部分の、のこぎり屋根になっている屋根に太陽光発電パネルを備え、アスリートモールという共用のロビーのようなスペースを備えています。このアスリートモールを中心にして、それぞれの施設が連なっているといった施設構成でございます。

敷地は、非常に広く、この敷地の周辺までは、車でないとなかなか行けないと思われまので、できるだけ多くの利用者の方々に、利用していただく為にも、駐車場台数を確保するという事で、建物を敷地の中の端部に集約し、残りの大部分を駐車場にして整備することで、より市民の方々にとって利便性の高い施設にしたいと考えております。

また、周辺が田園地帯になっておりますので、駐車場の周辺に、ポケットパークを設けたり、できるだけ緑化をすることで、田園地帯の景観にも馴染むような形の施設構成にしたいと思っております。

今現在、メッセウイングの前の広場に車寄せがございます。その車寄せと同じ所から、体育館に入っていけるという形、それから先ほどのアスリートモールを中心に施設構成を図っていきたいと考えております。

駐車場は全体で1,861台です。飛び地の部分に339台、それから、同じ敷地内に1,413台ということで、駐車場もできる限り集約し、外周にはランニングコースを設けるように考えております。

真ん中に長く伸びている部分が、アスリートモールという部分でございます。このアスリートモールに面して右側がメインアリーナ、その奥にサブアリーナこの奥に武道場、2階に弓道場、こちら側にはプールが壁越しに薄っすら見えています。アスリートモールまで

来るとすべての施設が一目で見渡せるという施設でございます。

今回は、メインアリーナ、サブアリーナ、プールなど、非常にたくさんの施設があります。そういったものを一般の方々にもできるだけ利用しやすいように、一目で見渡せる、アプローチのしやすい施設構成が大事であるという事で、こういった広々としたアスリートモールに対してすべて顔を出しているという構成になっております。

アスリートモールから、階段で2階に上がっていくと、2階は、メインアリーナの観客席になっております。観客の方は、1階のアリーナとは分離して、2階にアプローチできるような動線も計画しております。

この、アスリートモールと言いますのは、先ほど申しあげました通り、屋根に太陽光発電を備えており、トップライトや、自然換気ができるような開口部で、できるだけ自然の光が降り注ぐ様な形、自然の風が通るような形ということで、自然エネルギーを利用した、新しい体育館を象徴するような、空間になるように考えております。

これが、1階の平面図でございます。今、申しあげましたアスリートモールというのが、ここにズバツと長く通っている部分でございます、これに対して、メインアリーナ、サブアリーナ、武道場、それからプールはこちらから入って更衣室から通って行く、こちら側にトレーニングルーム、ここの部分に管理事務所がございます。

今現在、メッセウイングという3分割できる大きな展示場がございますが、この展示場とも一体的に使えるように、またスポーツ以外にも、展示会など、多様なイベントにも使えることを考え、メッセウイングのエントランスホールと総合体育館のアスリートモールが一体的に繋がるような施設構成になっております。

さらに、メッセウイングの一部については、床の改修をし、軽い運動ができるようにするとか、ある時はメッセウイングを取り込んでスポーツイベントできるような形にするとか、スポーツイベントがなくても一般利用、市民の方々が日常的に使われるように軽い運動であればできるような構成で考えております。

これが2階でございます。先ほどのアスリートモールは吹き抜けになっており、吹き抜けに面して大きな階段が2つあり、こちらから2階の客席に入ります。

サブアリーナもの同様です。

弓道場は、武道場の2階にありまして、アスリートモールから上

がってきた階段で、弓道場にアプローチするという形です。

それぞれ、メインアリーナ、サブアリーナ、プール部分につきましては、2層吹き抜けになっております。

それから、この部分は、屋上広場としてスポーツの合間のちょっとした休憩であったり、中学生や高校生の大会があった時などの、選手のウォーミングアップスペースや、休憩スペースや、お昼ご飯を食べるようなスペースといったように、多用に使えるスペースとして考えております。

先ほど、アスリートモールからそれぞれアプローチするといった話をしましたが、メインアリーナは更衣室を通じてメインアリーナに入っていく、上下足を履き替えます。またサブアリーナも同様に、更衣室からサブアリーナに入っていくといった形であります。

後は、武道場、プールはそれぞれに更衣室があるといった構成です。それから、メインアリーナの両脇にそれぞれ器具庫、控え室、更衣室を配置するといった形になっております。

メインアリーナは、3分割して使えるような形になっておりますので、器具庫、更衣室もそれぞれ対応できるような構成で考えております。また、メインアリーナで、例えば大きな大会や、プロの大会が開催された時には、当然一般市民利用と観客動線を分ける必要がございます。選手専用の入口を設けるようにして、選手ゾーンを完結し、表側とは完全に通路が切れ、動線をきちんと分離できるようにしたいと思っております。

一方、メインアリーナだけ大会を行い、プールは一般市民利用するといった場合など、いろいろな使い方に合わせた、動線の区切りができるように、考えていきたいと思っております。

メインアリーナの内部のイメージです。現在、最大観客席 3,000 席を計画しており、大きな大会でセンターコートだけ使うような場合に、一部、壁の中に収納されているものが、可動で前に出てきて使えるといったシステムを考えております。

また、窓は横にできるだけ大きくとって、採光が取れるような形とし、天井にも、梁の中で光を反射させて、太陽光を取り込む、光ダクトといった照明方式の採用を考えております。

これは端部から太陽光を取り入れて、中を反射させて、中央で光りを照らすという形の新しい照明方式でございます。

通常の大会の場合ですと、試合時に直射日光が入ってくるとことは、嫌われるケースがあります。大体窓があっても締められてしま

い、せっかくの昼間であるのに自然の採光が取れなくて、人工照明だけでスポーツをするというような環境になります。こういった光ダクトのように間接的に太陽光を取り込むような仕組みをとる事によって、電気代をできるだけ削減して、明るいスポーツ空間をつくり、快適なスポーツ環境をつくる、といったことを考えております。

先ほど、お話をしましたが、メインアリーナで大会があった場合に、アスリートモールは観客のスペース、選手のスペース、場合によってはサブアリーナをウォーミングアップスペースとして利用できるような、動線分離を計れるように考えております。

一方で、フィットネスや武道場の一般利用は、そのまま利用できるようなつくりで考えております。

メインアリーナの大きさでございますが、全体的に幅方向が45メートル、長手方向が69メートルになっております。バレーボールですと4面分、バスケットボールですと3面分、といった形でございます。また、これを一般的に市民の方々が利用される場合、空間を大きく3つに分けられるような構成も考えております。

続きまして、サブアリーナでございます。サブアリーナはメインアリーナより、ひとまわり小さい形で、幅方向が37メートル、長手方向が46メートルの大きさで、バレーボール、バスケットボールそれぞれ2面分の大きさでございます。

これらの体育館を、より多くの市民が利用ということを考えて、また、市民に親しまれやすいような体育館づくりという事を考えて、できれば、津市の地元産の木材利用を計り、壁の仕上げを木質にするとか、構造的なものを木造加工にするとか、地元の材料をどんどん使って、一般市民の方々に親しまれる構成の体育館にしたいと思っております。

それから、プールでございます。メインアリーナ、サブアリーナはかなり本格的なプロスタイルになっておりますが、プールに関しては、基本的に、一般市民の健康増進を主体に使われるように、25メートルプールを7コースで考えております。

一部、子ども用プールということで、子どもが使いやすいもの、それから、車椅子や高齢の方にも利用しやすいように入水用のスロープを設け、より市民利用に特化した形のプールにしたいと思っております。

プールもできる限り中庭側に設け、屋根をテント屋根にして自然の光を取り入れた形で、省エネルギー化を計るといった工夫を考え

ております。屋根に関しては、今後、いろいろな方式を検討中でございます。

これが、プールの平面図でございます。こちらがアスリートモールでございます、この向こう側にメインアリーナがございます。更衣室から入ってきて更衣室、プールに入ってください。まだ検討中ではございますが、プールは全体で25メートルを7コース、そのうち、端の3コースくらいを可動床にして、少し水深を浅くして、子どもやお年寄りの方々のウォーキングに対応できるようなコースも考えております。

この更衣室に関しては、マシンルームとフィットネススタジオの更衣室も兼ねて両方使えるようになっており、一般市民利用が一番多いゾーンをできるだけコンパクトに、使い易くするという考え方でございます。

これが、フィットネスジムとプールの断面図でございます。プールの水深は、1.1メートルで考えております。

今後、水泳関係の団体の方々と協議しながら、水深や、公認プールについて検討していきたいと思っております。

それから、武道場でございます。武道場はやはり、剣道、柔道、空手といった日本古来のスポーツをするスペースでございますので、全体的に格子天井による端整なデザイン、木質系の素材を使ったデザインにしております。

両サイド部分にハイサイドライトといった、自然の光を取り入れるような形、それから足元にも窓を設けて、自然の換気、自然の採光が取れる、自然エネルギー利用ができる空間づくりをしたいと思っております。

この武道場につきましても、専用の更衣室がございます。それぞれ見学者スペースを設け、見学の方々が来られるような大会であっても対応できるような構成にしたいと思っております。

武道場の2階部分は、近似的の弓道場になっております。

この弓道場は、射場の真ん中に審判席があり、10人並んで同時に競技が行える程の広さになっております。屋上部分でありますので、屋外になりますが、射場と的がある場所だけ屋根がかかっているといった構成ですが、屋根の形状は、メインアリーナ等と同様にかまぼこ型の屋根をつくりたいと思っております。弓を射る場所と的がある場所以外は屋根が開いております。

最後に、今、建築計画のお話をしまいましたが、これだけ大

規模な体育館でございますので、それぞれ冷暖房のことも考えておかなければなりません。

昨今、地球環境に配慮するという事が、非常に重要となってきております。CO₂の発生を抑制するという事を考えた上で、できるだけ省エネルギーで地球環境に負荷を与えないような、冷暖房方式を考えております。

日常的な市民利用の場合だと、あまり冷暖房といったとこまでいかないかもしれませんが、本格的な大会の時は冷暖房が必要となります。メインアリーナについては「居住域空調」、要するに、人々がいるところを中心に冷暖房をするといった考え方でございます。通常、冷暖房というのは天井部分に空調の吹き出しがあり、上から空気が流れてくるような形になります。そうすると、必要以上に空間全体を空調することになってしまいます。

そこで今回は、アリーナの競技に支障が出ない端部の床や、観客席の横の壁から吹き出すようなことで、競技をする人々がいる所だけを適切な温度に保つという方法を考えております。

また、観客席の床の外周部分に空調の吹き出しをつくることによって、観客の方々がいる場所だけを快適な環境にし、夏場の暑い時は、普通の環境よりは暑くなっているような場所があっても、競技をする人々、観客席の人々に支障がないような冷暖房方式を採用することによって、冷暖房にかかるエネルギーを削減しようという考え方でございます。

さらに、冷暖房に使う空気でございますが、冷暖房は通常、外部から空気を取り入れて、空調機で温度を下げたり、暖めたりして吹きだしますが、今回は、外部から空気を取り入れる際に、一旦体育館の基礎のピット部分に空気を通してから空調機に空気を取り入れるといった方式を採用します。

これは、水が、地下部分というのは年間を通じて、ほぼ温度が一定であることから、夏の暑い空気を一旦地下に通すことによって、外気より2.3℃下がります。そして、一旦下がった空気をさらに空調機に入れて冷房してあげることによって、そのまま外気を取り入れるよりも、冷房にかかるエネルギーが少なくて済むこととなります。

暖房も同じく、冬場の地下に外気を通して暖めてから、空調機に入れて暖房するといった仕組みを取り入れて、全体の空調エネルギーを下げる方式を考えております。

プールについては同じく居住域ということ considering、プールサイ

<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>ドに床暖房を備え、それから太陽熱集熱機を用いた暖房を行ったり、プールの温水をつくる為の、自然エネルギー利用を考えております。夏場もやはり同じような冷房方法を考えております。</p> <p>熱気溜りは上の方だけにできるので、居住域部分は快適な環境が保たれるような構成にしたいと考えております。</p> <p>冷暖房の話を中心にさせていただきましたが、基本的にはできる限り、自然の採光、自然の換気といったものを利用することによって、一般的な市民利用の際には、冷暖房を使わなくても、できるだけ快適なスポーツ環境がつけられるような構成にしたいと考えております。</p> <p>最初にもお見せしました、全体の外観イメージでございますが、それぞれの施設の屋根が正面側から顔を出すことによって、それぞれの施設が何処にあるのかわかり易く、市民に親しんでいただけるような外観にしていきたいと考えております。</p> <p>以上で説明を終わります。</p> <p>本日、ご説明いたしました設計内容につきましては、あくまで現時点での設計概要でありまして、今後本日参加していらっしゃる皆様や設計検討委員の皆様のご意見を踏まえ、事務局の皆様と協議しながらさらに検討していく予定ですので、後ほどご意見等いただけましたらと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>では、引き続き第三部としまして、短い時間ですが、小椋久美子さんに少しお話をお伺いしたいと思います。</p> <p>小椋さん、よろしく願いいたします。</p> <p>小椋久美子さんは皆様ご存知の通り、2008年北京オリンピックにバドミントンダブルス日本代表として参加され、8位入賞という成績をおさめられました。</p> <p>それ以外にも、全日本総合バドミントン選手権ダブルスでは2004年から2008年まで5連覇、2007年には世界選手権で第3位など、国内外の大会において大変素晴らしい成績をおさめられております。</p> <p>現在は、選手としての現役を引退され、新たにインストラクターとして後進の指導にあたりるとともに、講演活動やコメンテーターなど、多方面でご活躍されております。</p>
------------------	--

	<p>また、地元三重県の川越町のご出身ということもあり、今回計画中の屋内総合スポーツ施設の設計検討委員として、世界で活躍するトップアスリートの立場から、貴重なご意見をいただいております。</p> <p>本日は、世界で活躍されてきた小椋さんに、新しい施設に反映できるように、今まで試合をしてきたさまざまなスポーツ施設で印象に残っている場所、出来事についてお話をお伺いしたいと思います。</p> <p>スポーツ施設というハード面に限らず、運営やサービスといったソフト面、その施設のあるまちの様子や人々とのふれあいなど、お話いただければと思います。</p> <p>まず、国内外に限らず印象に残っているような事はございますか。</p>
小椋委員	<p>国際大会だけではなく、国内大会において自分の実体験をお話させていただきたいと思います。</p> <p>施設につきましては、海外の大会会場よりも国内の会場の方が素晴らしい施設が多く、私には合っているなと思っております。</p> <p>特に海外の大会は、更衣室がなかったり、シャワーがなかったりします。海外のトイレで、便座がないこともありました。</p> <p>色々な会場があるなかでも良いなと思った施設は、宿舎と体育館が一緒になっている施設で、試合がない日でも、試合相手の試合をすぐに見にいけるという環境には驚きました。</p> <p>私の場合は、緊張するとトイレに行きたくなりまして、遠くにトイレがあると不安になって試合の前はその場から離れられなくなったこともあります。ですから、選手と市民の方々も利用するということを考慮し、トイレの数、配置、国際大会開催時の選手目線でのトイレを考えて配置していただきたいと思います。</p> <p>あと、基本的には試合の際、パスカードがないと選手・関係者入り口に入れないようなシステムにより、選手とファンの方がまじわることはないように、そこで安全で安心できる仕切りをつくっていただきたいです。</p>
日建設計 (小谷)	<p>待ち時間があつたりしますが、そういった時はどんな感じなのでしょう。</p>
小椋委員	<p>バドミントンやバレーだと、決められた時間に会場にいても、前の試合が長引いて時間通りに始まらないといった事があります。私の場合、試合の2時間前に体育館に行き、1時間前からウォーミ</p>

<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>ングアップをします。試合が遅れるとお腹が空いてしまい、集中力がなくなってしまうので、軽食を食べられるような場所があると良いと思います。</p> <p>中国などでは、売店にお菓子やパンなどが売っています。他にも、体育館の外に出たら賑やかな場所や、自然がいっぱいあるような施設がありました。できれば日本の会場でも、軽食を食べる場所があるとうれしいです。</p>
<p>小椋委員</p>	<p>選手たちは、ある程度は食べ物を制限したりするのですか。</p> <p>試合の30分前にご飯を食べてしまうと、胃に残ってしまいますが、3時間前に軽食をとる程度であれば問題はありません。</p> <p>ヨーロッパでは、体育館で毎日軽食が用意されているわけではありませんが、国際大会がある時だけ、臨時でつくったお店に、家庭料理のようなものを並べて、バイキングでとって食べることができる場所がありました。アットホームな感じの食事が、選手と人とのつながりを感じられる温かい体育館であったなと思いました。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>それは、地元のボランティアの方々いろいろお手伝いされて作られたのですか。</p>
<p>小椋委員</p>	<p>そうだと思います。</p> <p>バドミントン協会の誰かといったわけではなかったので、ボランティアの方々なのかなと思います。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>施設とは関係がありませんが、どこの何がおいしかったですか。</p>
<p>小椋委員</p>	<p>どこの国だったかは忘れてしまいましたが、体育館の一步外に出て簡単に食べることができる、「ケバブ」という食べ物が印象的です。ケバブの中には、チキンが入っており、スポーツ選手にとっては選びたくなる食材ですので、よく、ケバブを食べていました。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>そうすると、施設の中にボランティアの人が活動していただけるような場所もあったほうが良いですか。</p>
<p>小椋委員</p>	<p>そうですね。レストランとは違い、アットホームな感じが良いと</p>

<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>思います。軽食的なホットドックや、温かい飲み物があつたりすると良いと思います。</p>
<p>小椋委員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、もう一点お伺いしたいのですが、競技を引退されて今後インストラクターなど、さまざまな形でスポーツに関わっていかれることと思いますが、新たな活動の場、市民とのふれあいの場としてスポーツ施設をとらえた場合、スポーツ施設をどのようにお考えになるかお伺いしたいと思います、いかがでしょうか。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>私が考えるスポーツ施設は、指導者として子どもたちにスポーツを教えていて、スポーツを楽しみ、何度もやりたいと思える環境を整えることが大切だと思いました。まずは市民の方々に向けてコミュニケーションがとれる施設をつくるべきだと思います。</p> <p>今回計画中の施設は複合施設となりますので、様々な競技者とコミュニケーションをとったり、子どもも大人も一緒にスポーツをして、コミュニケーションが広がっていくような施設になれば良いなと思います。</p>
<p>小椋委員</p>	<p>国際大会ですと、選手と観客のエリアを完全に仕切っていますが、今はどんどんふれあいができるようになってきています。建物の構造として、アスリートモールを一般の方々とふれあう場として、計画しておりますが、いかがでしょうか。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>試合前の緊張感を自分でつくりたい時に、一般の方々と一緒にいると、自分のモチベーションや、試合へ望む気持ちがなかなかつけれないので、試合前の控え場所が、アスリートモールだけだと難しいものがあると思います。</p> <p>しかし、控え室であつたり、アスリートの方と一般の方とを分けられる場所があるので、それを踏まえて考えるとアスリートモールのような場所があると、例えばサインを書く時間や、機会があると人とのふれあいができるのではないかなと思いますので、アスリートモールというものはすごく良いと思います。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>試合後にサインは書く時間をとるのでしょうか。</p>

小椋委員	<p>そうです。私たちの場合は、試合の後に時間を設けていました。</p>
日建設計（小谷）	<p>そのあたりを考えて計画させていただきます。あと、お話はございますか。</p>
小椋委員	<p>先ほど、「きたえーる」という施設の愛称の話がありましたが、私も何度か大会で利用させていただきました。すごく施設としても新しく、選手側の目線からみても、その会場で試合した時は本当に良い施設だと思いましたし、そういった施設になってほしいという気持ちがあります。また「きたえーる」という名前は本当に良い名前だと思うので、市民にとって親しみやすく、力になるような名称を考えていただきたいと思います。</p>
日建設計（小谷）	<p>名称につきましては、また一般の方から募集すると思いますので、是非その機会にご意見いただきたいと思います。</p> <p>では、短い時間で申し訳ありませんが、時間となりましたので小椋さんのお話はここまでとさせていただきます。</p> <p>この後のパネルディスカッションの場でさらに興味深いお話を聞かせていただければと思います。</p> <p>小椋久美子さん、ありがとうございました。</p> <p>では、このあたりで10分間ほどの休憩をいただきたいと思います。この後は、第四部、設計検討委員の皆様によるパネルディスカッションです。第四部はただいまから10分後の15時20分から再開いたします。</p> <p>(休憩)</p> <p>では、シンポジウムを再開いたします。</p> <p>第四部では津市屋内総合スポーツ施設検討委員会の委員の皆様によるパネルディスカッションです。</p> <p>テーマは「親しまれるスポーツ施設とは」とさせていただきます。</p> <p>最初にパネラーの皆様をご紹介します。</p> <p>NPO法人MIIPスポーツプロジェクトの理事・事務局長でいらっしゃいます相沢雅晴さんです。</p>

相沢さんは、元ラグビー日本代表の主将も務められた方で、現在MIPスポーツプロジェクトの活動を通じ、モラル、インテリジェンス、フィジカルのバランスが取れた人間形成を目途として、青少年の健全育成やスポーツ文化の向上などに取り組んでおられます。

本日は、そういったスポーツ文化に関する多方面な視点からお話をお伺いしたいと思います。

続きまして、先ほどもお話をお伺いいたしました、小椋久美子さんです。引き続き、スポーツ施設を利用するトップアスリートとしての立場からお話をお伺いします。

続きまして、三重県短期大学生活科学科の准教授でいらっしゃいます、木下誠一先生です。

木下先生は、建築計画・建築設計をテーマとして研究をされておりまして、今回の設計検討委員会の委員長を務めておられます。

木下先生には、まさに本日のテーマであります施設計画について建築の専門家という立場からお話いただければと思います。

続きまして、本日最初に基調講演をしていただきました、後藤先生です。

後藤先生には、スポーツを行う施設利用者として、スポーツを通じた文化形成、市民交流、教育活動の場としてのありようについてお話いただきたいと思います。

最後に行政側を代表しまして、津市の野口正副市長にも参加していただきます。

野口副市長には、行政側からの立場のほかに、ご自身剣道をなさっておられたというスポーツマンでいらっしゃいますので、スポーツをする側の立場としてもご意見をお伺いできればと思います。

事務局側として、野呂部長と渡辺も参加させていただきます。

まず、委員の皆様「新たなスポーツ施設建設にあたり、これからのスポーツ施設の在り方をどのように考えるのか」ということを伺いたいと思います。

<p>相沢委員</p>	<p>では、相沢さんからお願いします。</p> <p>私は、一般利用者がいかに施設を使えるかという事が1番だと思います。</p> <p>私たちの団体も6年前から指定管理者制度を利用して、東京体育館というメインアリーナ、サブアリーナ、プールやトレーニング室、200メートルの陸上トラックがあり、その中の多目的コートでフットサルが行える、日本でも有数の体育館で、陸上、フットサルの活動を行っています。</p> <p>ここの施設の良い点は、国際大会などの大きな大会を開催できるような施設である一方で、サブアリーナや陸上トラックを近隣の学校が利用したりしています。当初、価格の面では苦労しましたが、利用者の方々がお互いに歩み寄っていける環境がつけられております。</p> <p>今回の津の体育館について期待したい事は、大会が開けてなおかつ、健康や趣味のために市民の皆様が楽しく使っていただけるような施設にしていきたいなと思っております。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、小椋さんよろしくお願いたします。</p>
<p>小椋委員</p>	<p>一般の方々が一番利用すると思いますので、楽しめる環境をつくる必要があると思います。選手目線から言わせていただくと、国際大会や国内大会に限らずどんな大会にも選手が使いやすい施設にしていきたいと思います。例えば、国内大会だと試合が終わるとすぐ帰るので、その時にシャワーがあると助かります。</p> <p>私は、子どもたちの指導をする立場から、子どもたちが楽しんでスポーツをやってほしいという気持ちもあり、子どもたちが元気に体を動かす事によって地域も活性化するのではないかと思います。そういった点で子どもたちに使ってもらえるような施設になってほしいと思います。</p> <p>もう一点、私は国際大会などの合宿で、NTC(ナショナルトレーニングセンター)という所で練習をしていました。いろんな競技者がいる中で、一緒に練習したり、ご飯を一緒に食べたりもしていました。そういった環境によって、縦の繋がりだけではなく横の繋がりも広がり、得るものがたくさんありました。</p>

	<p>今回の施設は総合体育館になるということで、他のたくさんの競技者がおりますので、そのなかでコミュニケーションをとったり、人との繋がりを広げられるような施設になってほしいと思います。</p>
<p>日建設計（小谷）</p>	<p>木下先生、お願いいたします。</p>
<p>木下委員長</p>	<p>私は建築計画が専門ですので、その立場からお話をさせていただきます。一般的にスポーツ施設は、規模が大きくなりますので環境に対する影響が大きくなります。その負荷をいかに少なくするかという配慮が欠かせません。</p> <p>先ほどいろいろご提案がありましたが、自然エネルギーを使ったり、周辺の景観に配慮することが基本的な姿勢として必要となってきます。</p> <p>また、スポーツ施設は大きな空間を有しますので、日常的なスポーツとしての役割だけではなく、災害時やイベントの時にその広いスペースが有効に利用できるような、非日常的な利用にも配慮できるように計画しなければならないと思っております。</p> <p>私が市民に親しまれる施設にするために、特に重要だと思っている点は、「開放性」「複合性」「地域性」の3つございます。</p> <p>「開放性」については、施設が開かれているということですが、これまでの施設というのは、どちらかというとスポーツをする人が主に利用するものであるイメージがありますし、管理を厳重にするあまり入り口が限定され、建物のづくりも閉鎖的で、中の様子がよくわからない建物が多くあります。その結果、利用者を限定してしまい、広がり期待できなくなってしまいます。</p> <p>民間施設ならともかく、公共施設はもっと開放的に多くの方に利用していただけるようにつくるべきだと思います。</p> <p>建築的には、公園とか図書館のように子どもから高齢者まで、それから個人から家族、団体まで幅広い人々が気軽に訪れやすいような雰囲気づくりがとても大事だと思います。</p> <p>スポーツをされない方にも、施設を利用することでスポーツに関心を持ち、お互い見たり見られたりする関係の中から、活動がもっと活性化していくと考えております。</p> <p>2つめの「複合性」につきましては、1つの場所に様々な要素を持つ施設をつくるということです。</p> <p>今までの施設は競技することを主目的に、計画されてきた傾向が</p>

	<p>あります。しかし、施設の利用実態を見てみると、競技だけではなく、食事をしたり、休憩をしたり、会話したり様々な利用用途があります。最近では、スポーツの楽しみ方もいろいろ多様化してきており、競技だけではなく、見たり、学んだり、健康づくり、仲間づくりといった目的で利用できる施設として、包容力や柔軟性を持ち、活動の幅や人間関係が広がるような施設にする必要があると思っております。</p> <p>今回の施設はメッセが隣にあり、様々な機能が複合されますので、相乗効果も期待できると思っております。</p> <p>最後の「地域性」につきましても、地域の個性を反映するという事で、これまでの施設はどちらかというと全国どこでも同じ施設という形で作られる傾向があります。スポーツ施設は規模が大きいのので、周辺に対する影響が大きく、地域の実状や個性は反映されるべきだと考えております。敷地は、田園地帯、長谷山、経が峰に囲まれた場所です。私も津市で生まれ育ったので、田園風景として残っており、その場所に大きな建物が立つということは、それなりの配慮が必要であると思います。</p> <p>私からはその3点を挙げさせていただきました。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、後藤先生よろしく願いいたします。</p> <p>木下先生のご意見に付随することになりますが、私もスポーツ種目、スポーツ競技団体に属している人たちは気軽に利用できると思っています。でも、運動や体を動かすことが好きな人たちは、スポーツ愛好家の方達以上に多くいらっしゃると思いますが、そういった人達が集えるような施設であってほしいと思っています。例えば、体育館でもバドミントンやバレーボールやバスケットボールだけではなく、体育館で広々走ったり、運動がしたいといったような活動も受け入れてくれるような施設であってほしいと思います。</p> <p>もっと言うと、素晴らしいアリーナの中だけでなく、今回ご提案いただいているアスリートモールや屋上庭園というようなアリーナに付属するプラスアルファの部分が充実していると、スポーツ施設に対する市民の意識のハードルが低くなって、日頃からスポーツに親しみのない人たちも、気軽に利用できるというような活動の広がりがあると思います。例えば、中勢北部サインエンスシティの広場</p>
日建設計 (小谷)	
後藤委員	

	<p>あたりで、子ども連れのご家族とかペット連れの人たちがごった返しています。スポーツではありませんが、十分な身体活動を行っていると思います。そういった人たちも受け入れられるように、アスリートモールや周りの駐車場スペースにも小さい活動の場を備えられていると良いと思います。</p> <p>さらに、芝生や広場で小さな子どもがゴロゴロ転げまわるような、小さい頃から身体活動に親しむ生活が、ひいては豊かなスポーツライフへと繋がっていき、人間の一生を考えると小さなお子さんから始まっていると思いますので、是非小さいお子さんを受け入れられるようなスポーツ施設や広場になっていただければ良いかなと思っております。</p> <p>もう1つ、利用者の意識も育てていってほしいと思います。今回大きな駐車場がないと大きな大会が開けないということで、ずいぶん駐車場の確保に苦労なされた事と思います。大きな大会で広い駐車場は大事ですが、毎日大きな大会をしているわけではないので、駐車スペースの有効的な利用方法と、できる限り利用者が遠いところに車を止めてウォーミングアップしながら歩いてアリーナにやってくるくらいの気持ちを持って、来て頂くことが良いのではないかと考えております。よく見受けられるのは、フィットネスクラブやジムに近くまで車を乗り付けて、全然運動をしないままジムで運動してそのまま車で帰って行ってしまうということがあります。豊かな文化を教授するという事で、そういったジムで運動することも大切ですが、自分の健康とかスポーツライフを見つめ直す時に、生活全体を整えていく時に、立派なスポーツ施設で運動をしていって、人間の生活全般をとらえた上のスポーツ施設であってほしいという願いです。つまり、幅広い利用者を受け入れてくれる広い心を持った、広い施設であってほしいというのが私の願いであります。</p>
日建設計 (小谷)	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、野口副市長よろしく願いいたします。</p>
野口委員	<p>私も広い心は、とても大事だと思いますが、一方で行政の考え方からすると、予算を考えなくてはならないので、そのなかで最大限市民の皆様に使ってやすくて、健康増進に繋がるような施設を考えていく必要があると思います。できれば、本当に小さい子どもが裸足で走れるような場所があれば良いなとか、お年寄りの方々が周りを</p>

	<p>歩いていけるような施設が良いなとは思いますが。若い世代からお年寄りの方々に利用していただき、中高年も含めて健康のためにしっかりとこういった施設を使っていただければ、医療費の削減にも繋がり、国民健康保険体系も安定するということがあります。健康と医療とを中長期的に考えていかなければならないと思っておりますし、皆様方にもただ単に寿命が延びるというよりも、これから先、健康でいられる時間を少しでも長く過ごしていただきたいといった活用ができる施設であって、なおかつ大きな大会を開き、お子さまが自分の目の前で素晴らしい選手のプレーを見ることは、すごく大事だと思います。私たちの小さい頃は、見とり稽古といって怪我してもなかなか休ましてもらえず、先生や大人の稽古をみて勉強するということがありました。やはり、見ることもスポーツには大切な要素であり、そこから学ぶこと、夢を持つことも多いと思います。立派な選手に来ていただいて、スポーツをしていただき、それを楽しんでもらったり、学び取っていただくような施設を是非実現させたいと思っております。</p> <p>もう1つは、怪我をしない施設・運営です。施設をつくって利用すると思いますが、そのなかで適切な指導をされる方がいると思いますが、私の大学時代の経験から、中には途中で体を壊してしまう人もいれば、怪我をしてアスリートになれなかった人もいます。体育館で剣道することは良くない事で、スプリングやすべりが違うと足を痛めたりしますので、スポーツにあった施設がありますので、ある程度汎用的にしっかりした武道場を用意していただく必要がありますし、指導していただく方にもなるべく怪我をしないような指導をしながらといった運営面についてもしっかりとした施設にしていきたいと考えております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>いろいろご意見をいただきました。</p> <p>市民が楽しんでスポーツできるような施設にしたいといった話ですが、先ほど弊社の渡辺からご説明させていただいた具体的な施設設計画案について、ご意見、ご質問などいただければと思います。</p> <p>最初に建築の専門家として木下先生お願いいたします。</p>
日建設計 (小谷)	
木下委員	<p>先ほど設計者の方から具体的な設計案についてご説明いただきました。そのなかで、私が特に良いなと思っている場所は、アスリー</p>

	<p>トモールです。メインやサブ、武道場といった各スペースを繋げている、施設全体の中心となっているような場所です。それぞれの各スペースについては、競技のそれぞれの規定に沿って検討していくことが大事ですが、今回のように大きな複合施設の場合は、各施設をいかに繋げていくかといった事が重要なポイントになると思います。この計画については、100メートル程のアスリートモールがその役割を果たしているということで、初めて施設に来た人たちでも、どこに何があるのかわかりやすく、動線もうまく処理しやすいといったように、ユニバーサルデザインの観点からも良いと思います。</p> <p>アスリートモールという名前がついておりますが、モールは遊歩道を意味します。ショッピングモールのようなものをイメージで、歩きながら、ウィンドウショッピングを楽しむようにそれぞれのスペースの活動の様子がわかるような形、あるいは、オープンカフェのように、憩いの場や会話の場として、賑わいスペースでもあると良いなと思います。</p> <p>私は、プールもアスリートモールから眺められる、メインや武道場など他の施設も外から眺められるように、オープンなスペースにすることが大切だと思います。そうすると、競技されている方がプライバシー意識をどういったように思うのかお聞きしたいということ、建築的にどういった形でうまく調整していくのかといったアイデアがあれば、教えていただきたいなと思っております。</p>
日建設計 (小谷)	選手として小椋さんとしては、どうですか。
小椋委員	私も、プールについてお話したかったのですが、小学生くらいの子どもたちであれば良いのかなと思いましたが、プールを利用する一般の意見としては、オープンなガラス張りだと利用したくないと思います。体型も気になりますし、女性の方にとって、水着姿を見られることは好まれないと思います。
日建設計 (渡辺)	予想していた話ではありますが、見る、見られるという良さは一方にありますが、水着姿はどうかと相反する意見もあります。前面ガラス張りなのかどうかはともかく、ガラスに何か仕込んでおいてある時には見えないようにするとか、上手に見せられ、開放性をしっかりコントロールできるようなことを検討していきたいと思いま

	<p>す。</p> <p>1階のアスリートモールに隣接してプールサイドがあって、ガラス張りだと見えてしまいます。2階には見学者ギャラリーがありまして、例えば、子どもスイミングで父兄の方が子どもたちの泳いでいる姿を見ることができるといったニーズがあります。後ほど市民の方々からのご意見があると思いますが、こういった材質が良いかによってアスリートモールの空間イメージも変わってくると思いますので、色々なご意見をいただければと思っております。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>それでは、再び今回の設計案についてのご意見があれば、後藤先生お願いします。</p>
<p>後藤委員</p>	<p>1つは、プールについてですが、一部の床に可動床を計画しているようですが、例えば今日は水深1.1メートルで明日は水深1.5メートルといったように、フレキシブルに変えられるのかといったことと、今までの利用状況を見ていると、そんなに簡単には水深を変えられなくて、一回設定してしまうと変えることはできてもお金がかかってしまったり、大きな作業が必要だったりといったことで、可動床を動かしたことがないというプールをよく見受けますが、手軽にかえられないのであれば、予算を考えると固定床でも良いと思います。</p> <p>もし、可動床を利用するのであれば、水深を深くできるようにして、飛び込みや潜る体験ができるといったニーズにも応えられるようにしたほうが良いと思います。</p> <p>もう1つは、私は体育館のシャワーに良いイメージがありません。たいていの施設が、シャワーカーテンにカビが生えていて汚く、お湯が出なかったり、排水溝が詰まっているといったイメージがあります。ですので、こういったことがないように配慮していただきたいと思います。</p> <p>おそらく日常的に通ってくるような方たちは、終わったらすぐ家に帰ってシャワーを浴びるので夏場の暑いときでない限り、シャワーは使わないと思います。</p> <p>大きな大会を開催する時には必要であるし、夏場の暑い時には利用したいと思うので、うまく活用できるようなシャワールームを考えていただきたいと思います。</p>

<p>日建設計（小谷）</p> <p>事務局（野呂）</p>	<p>プールの水深の話や管理・運営の話は野呂部長にお願い致します。</p> <p>プールにつきましては、最近可動床により泳いだり、水中ウォーキングをしたり、子どもさんが使ったりという様々なニーズに合わせてプールを水深をかえております。</p> <p>しかし問題点は、予算がかかってしまうということや、つくってしまえばその後お金がかからないかという、メンテナンスなどでお金がかかってしまうことです。</p> <p>プールは、公認にするかにもよりますが、公認プールだと飛び込んで競技するということになりますので、水深を1.35メートル以上必要となってきます。可動床にして使うとすれば、何コースかは、1.35メートルの水深をとって、もう1つは1.0メートルくらい水深でウォーキングとか泳ぎに自信のない方も利用することもできます。しかし、問題点もありますので、今後検討したいと思います。あと今の市民プールでは、水深が1.2メートルから0.95メートルで、泳ぐ方やウォーキングする方いろいろ使い分けて利用していますが、プールの利用例を見ると、泳ぐ方が7割、水中ウォーキングする方が3割で数パーセントが小さな子どもさんということで、そういった利用例を見て、あまりお金のかからないものをつくりたいと考えております。</p> <p>シャワーは、衛生上ちゃんとした設備としっかりとした管理をしていきたいと思っております。</p>
<p>日建設計（小谷）</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>後藤先生、どうでしょうか。</p>
<p>後藤委員</p>	<p>シャワーですが、実現できるかはわかりませんが、私がドイツのチューリッヒ大学のスポーツ施設に行った時のシャワールームは個室ではなく、大きなシャワールームの中にジャグジーが並んでいて、まるで公衆浴場のような感じでした。それでしたら、カビは生えないし、シャワーカーテンで仕切らなくても良く、運動する人であれば個室に入ってシャワーを浴びるのではなく、開放的な感じでシャワーを使うことで、大人数でも入れますし合理的かなと思いました。そういった例もありますので、どうかご検討いただけたらと思います。</p>

<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>アスリートモールの利用法についてなにかアイデアはありますか。</p>
<p>相沢委員</p>	<p>アスリートモールの利用法は、ある程度決めたほうが良いと思います。軽食を食べられるような場所を設えたり、三重で著名なアスリートの方々にメダル等をお借りして簡単な展示コーナーのようなスペースを設けたりするのも良いと思います。</p> <p>こういったスペースがあると、市民の方も楽しめると思いますので、モールはもう少し設えた方が良いでしょう。</p> <p>あと、トイレについてですが、体育施設に和式はいらないと思います。例えば、テーピングをして膝が曲がらないようにしている時に、和式しかないとすごく大変だと思います。そういったことも配慮したほうが良いと思います。最近、膝とか腰とか痛めているご高齢の方とか障がい者の方の利用も多いと思うので細かい配慮ができる施設が良いと思います。</p>
<p>建設計 (小谷)</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>トイレは基本的に洋式ですね。</p>
<p>日建設計 (渡辺)</p>	<p>最近、家庭のトイレが洋式で和式が使えない子どもたちも増えてきているので、メインは洋式になります。ユニバーサルデザインという点からも、体の不自由な方、高齢者の方や様々な方に、多目的に利用できるトイレも各所に設けたいと思います。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>相沢委員から、アスリートモールにはいろいろな仕組みを設けた方が良いでしょうというご提案でしたが、それについて何かアイディアはございますか。</p>
<p>木下委員</p>	<p>いろんな活動に使っていただくということで、テーブルやソファやコーナーを動線に支障が出ないように設けることで、展示ギャラリー、軽食、休憩・談話スペースであったり、スポーツに関する図書や映像資料が見られる、賑わいがあるスペースをつくるのに必要だと思います。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>スポーツをすることを目的とした施設ではありますが、単純にそれだけではなく、市民がふらっと立ち寄れるそういった施設が良い</p>

<p>木下委員</p>	<p>ということですか。</p> <p>そうですね。当然、競技をする為の施設ですので重視されるのは当然ですが、プラスアルファでそれ以外の方も利用できるような展開も必要だと思います。やはりスペースだけ広くて何もなく、活動ができないというよりは、家具とかがあってこそアクティビティーに活動ができると思っています。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>市民の方々が集まってくる、市民同士のふれあいのような場になると思います。</p> <p>少し話題を変えさせていただきますが、津市のスポーツ振興計画の「スポーツを通して心豊かな活力あるまち『津』を目指して」スポーツを通した市民交流、それを発展させたまちづくりということですが、スポーツを通して市民の方が集まる施設づくりを踏まえて、まちづくりといった観点から見てのご意見を、野口副市長にお願いいたします。</p>
<p>野口委員</p>	<p>まちづくりといっても、非常に幅広い概念があります。ひとつはスポーツが、市民の方々の日々の健康問題や将来的な健康事業を、伸ばしていくためもありますし、日々の生活の中でより気持ちに潤いをもって、楽しく生活していただく為にも、この施設の利用があります。市民の方々にとってスポーツが人生や、生活の中で必要な要素になりますので、役に立つものの提供という事で、施設を1つの道具と考えています。他にもたくさん施設はありますが、その中でもこの施設が市民の方々に楽しんで上手に使っていただけるよう、その部品の管理を我々がしっかりと考えていかなければならないと思っております。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>建物づくりにつきましては然る事ながら、ソフト面、運営管理面ということはいかがでしょうか。</p>
<p>後藤委員</p>	<p>あまり詳しくないのでなんとも言えませんが、広い駐車場の利用方法を考えるべきだと思います。駐車場やアスリートモールが無料だからこそ施設を利用するという方もいらっしゃいますし、インラインスケートとかスケートボードといった広々としたアスファルトのスペースが必要なスポーツもありますので、そういった利用もで</p>

<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>きるともっとたくさんの若者が施設に来られると思います。</p> <p>見てわかりますように、周りが田園地のスポーツ施設ですので、何かなければ誰も来ないといった事が危惧されます。様々な形で利用可能だということをアピールして、たくさんの方が来ていただけるようにすることが必要だと思います。</p> <p>体育館を含めた周辺の場所の使いかたを考える上で、こういった場所にこんなものを作ってみたらどうかといったようなアイデアはございますか。</p>
<p>小椋委員</p>	<p>大会がある時は、その駐車場が使われるので少し難しいと思いますが、1つの提案として、室内での飲食が難しいのであれば、外にテントを張って飲食を販売できるスペースがあるといいと思います。そこでは、三重県で開催される、東海地区のB級グルメで、1位から3位まで入賞した三重県の名物としてPRできるようなお店を設けた方が良いと思います。それをどこでやるかは難しいところです。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>今回、メッセと一体的に建てるということですので、単純にスポーツだけではなく、イベントでの利用も考えられます。相沢さんは、使い方について、こういった事をしたという例はありますか。</p>
<p>相沢委員</p>	<p>駐車場はアスファルトですので、スケートボードやインラインスケートはよく見られますが、駐車場の利用はなかなか難しいと思います。イベントの内容については、それぞれ空いている時に対応していくしかないと思います。</p>
<p>日建設計 (小谷)</p>	<p>今回、メッセと一体で建物を建てることの意味についてお伝えしたいと思います。</p>
<p>事務局 (野呂)</p>	<p>今回このメッセウイングと一体でスポーツ施設をつくりますので、このメッセ自体に新しい活用法ができてくると思います。例えば、スポーツ大会をやる時に来られたお客さんが隣で行われている展示を見ることができたり、逆に大きな大会をやる時に飲食やショップ、津市で言えばいろんな物産のPRになる機会になると思います。そうすれば、この大きな展示場を活用することができると思います。</p>

	<p>ます。</p> <p>このメッセウイングはあくまでも産業支援施設として利用しますが、いろいろな会議室もございますし、大きな展示場が3つ分割で使えるようになっております。そこで考えているのは、会議室のどれか1室をじゅうたん張りから床張りにして、いろんな軽スポーツやダンスができるように改造できないかなと思っております。</p> <p>下の展示場に関しましても、コンクリートの真ん中に側溝がはしっているような状況ですが、1番端の一面だけをクッションが効くようなスポーツ床にかえれば、展示にも使えてさらに、フットサルやテニスといった屋外スポーツを屋内でできるような使い方もできるようになります。そういった活用方法も広げていきたいと思っております。</p>
日建設計 (小谷)	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様からの様々なご意見ありがとうございました。</p> <p>では、このあたりで本日までご参加いただいているかたからの質疑やご意見を受け付けたいと思います。</p> <p>ご質問のある方は、挙手をお願いいたします。また、ご質問の前にできればお名前とご職業もしくは所属をお教え願えればと思います。なにかご意見ご質問のある方はいらっしゃいますか。</p>
津市サッカー協会関係者	<p>津市サッカー協会を代表して、お願いしたいのですが、今フットサルの競技の話が出ましたが、フットサルは、床が安定した場所でないとは本来プレーができない危険な競技です。現在、津市内の体育館でフットサルの使用をお願いすると、競技場の床が傷むとか、壁が歪むといった理由から、ほとんどの体育館に断られてしまいます。元々体育館とはそういった激しいスポーツをする場所であるので、壁にボールが当たるとか、選手がぶつかるといったことは想定内で行われていると思います。現在サッカーのスキルアップなどを目的として、フットサル競技者の人口が増えてきており、津市内でも少年団が全国大会で優秀な成績を収めました。そういったチームが大きな大会を開こうと思っても、この近辺では大会を開くことができません。先ほど「きたえーる」という話がありましたが、日本でトップリーグのFリーグというチームが、そこをメインアリーナとして利用していて、他でも市営や県の体育館をフットサルリーグで使っております。そういったトップチーム、トッププレイヤーのプ</p>

<p>事務局（野呂）</p>	<p>レーを見せたくてもこの辺では見せることができません。</p> <p>やはり、子どもたちにとって一流の選手たちのプレーを見るのが1番技術のアップに繋がると思います。</p> <p>今、お貸しいただいている体育館は、使用前にはネットを張ってくださいとかフットサルは別料金というような扱いでありますので、今回の体育館に関しては、是非ともフットサルが常設で使えるような進め方をさせていただきたいと思います。</p> <p>現在、津市でフットサル専用のコートは、屋外コートしかありません。今の体育館では床が傷むとか、壁の素材が対応できてないという理由でお断りしている施設もあります。最近フットサルの人気が高く、競技者がたくさんおられるという情報もございますので、新しくつくる施設についてはフットサルに対応できるような施設構造を考えていきたいと思っております。</p> <p>メインアリーナは3分割で利用できますので、しっかりネットで分割したり、強度がある床や壁などフットサルでも利用できるように検討していきたいと思います。</p>
<p>柔道関係者（関氏）</p>	<p>柔道の関と申します。武道場についてお伺いします。</p> <p>先ほど、壁をすべて板張りにするとおっしゃっていましたが、今までの古い武道場のように窓があったほうが風通しも良く、空調を使わなくても良くなると思いますが、設計上ではどうなりますか。</p> <p>あと、メインで9面使えるということですが、全部畳で常時確保されているのでしょうか。</p>
<p>日建設計（渡辺）</p>	<p>先ほど完成予想図で武道場をご紹介しました。</p> <p>窓がないわけではなく、欄間窓があります。</p>
<p>柔道関係者（関氏）</p>	<p>使う側にとっては、上下の窓は風通しが悪く、普通空調は使いたくないのでいいと思います。私たちにとっては、腰ほどの高さの窓が1番使いやすいです。</p>
<p>日建設計（渡辺）</p>	<p>風通しを良くするというご意見はよくわかりますし、確かに汗をかいて暑苦しい空間になりがちですので、通常の窓が良いのか、地窓と欄間窓を併設して風が上手に空間を流れるようにする方法もございますので、今後の検討に活かしたいと思います。</p>

<p>事務局（野呂）</p>	<p>畳は、今後どれ程備品を揃えていくか、またその備品を収納する器具庫があるかといった検討をしていく必要があると思います。当然、大会を開催することを想定して、柔道であれば4面に対応できる畳の数はいると思いますし、メインアリーナかサブアリーナのどちらかを借りて大会ができるくらいの畳は用意しておく必要があると思っています。</p> <p>今、両方同時に利用するとなるとかなりの量になってしまうので、予算を見ながら考えさせていただきたいと思います。</p>
<p>津市体育協会会長 (長谷川氏)</p>	<p>体育協会の長谷川です。私どもの協会は37の競技団体がございます。今日は、屋内の競技団体が多数参加しております。先ほどのシンポジウムの話聞いておられますと、いかにこの新しい施設に人を集めるかという問題だと思います。</p> <p>私どもは5年越しに、この素晴らしい津市でスポーツ施設が出来るということを実に楽しみにしております。何を喜んでいるかという、三重県の中で特に津市は大きな大会はひとつも開催出来ないというのがひとつの理由です。根本的に全国大会が開催される立派な施設をつくりたい。我々にも、意見があるということを考えていただきたいです。私どもは、何年か越しでこの問題に取り組んできましたので、大きな大会を開催するにはどうしたら良いのかということをもっと少し考えていただきたいと思います。</p> <p>先ほども柔道協会からお話がありましたが、畳のこともすべて協会で話し合ってきました。いかに行政や委員会の皆様が全国大会を希望しているかということをもっと力を持って考えていただきたいと思います。</p> <p>よろしくお願いたします。</p>
<p>野口委員</p>	<p>大変力強いご声援をありがとうございます。</p> <p>我々も、備品の問題も含めてしっかり検討していきますし、あとは各団体の方々と共に考えていかなければ、全国規模の大会を開催できるような施設をつくることは難しいと思います。</p> <p>各団体と各関係者と一体となって大きな大会を開ける施設を目指して取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>

津市体育協会、テニス協会関係者	<p>同じく、体育協会とテニス協会からお伺いしたいと思います。</p> <p>まず、現在津市の従来のスポーツ施設は、公園内スポーツ施設が多くあります。今回皆様のご意見を聞いてますと、多くの方に利用していただける施設にしたいということですが、公園内スポーツ施設ということになると、大変制約が多く、トップアスリートを呼んで競技することは難しいと思います。今回は、こういった形で施設をつくれるのかということが一点です。</p>
事務局（野呂部長）	<p>一般的に大きな施設をつくろうとすると、国から補助金をもらわなければならないので、公園事業にする施設が多いですが、そうすると、建物を建てる建ぺい率が10パーセント以下に抑えなければならないか、半分は緑地にしなければならないか色々制限がでてきます。そういった公園の規定がありますので、使い勝手が悪くなってしまうという現状がございます。</p> <p>この施設につきましては、敷地に対してかなりの部分に建物が建ちます。要は合併特例債という財源を使いことで、公園の難しい規定によらなくても自由に施設をつくれますし、利用度に対してもかなり需要が高いものをつくれると思います。</p> <p>そういった点では、市民の皆様に応えられるような対応ができるのではないかと思います。</p>
津市体育協会、テニス協会関係者	<p>次に、相沢さんにお伺いいたします。</p> <p>東京体育館で東レパン・パシフィックというテニスの大会を行っていますが、メインアリーナかプールのどちらを使用しているのですか。</p>
相沢委員	<p>メインアリーナだと思います。</p>
体育協会・テニス協会	<p>今回の施設設計についてお伺いしたいのですが、メインアリーナにテニスコートは出来るのでしょうか。</p>
日建設計（渡辺）	<p>テニスコートは3面確保しております。</p>
津市体育協会、テニス協会関係者	<p>3面のうち、真ん中のコートで国際大会を行って、そのコートを囲むように補助の観客席の設営が出来るような設計にはなっていませんか。</p>

<p>日建設計（渡辺）</p>	<p>出来ます。</p> <p>センターコート1面を囲んでアリーナに可動の観覧席をだし、固定席合わせて3,000席分の観客動員スペースを確保しております。</p>
<p>津市体育協会、テニス協会関係者</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>津相撲協会（椿本氏）</p>	<p>相撲協会の椿本です。</p> <p>施設のハード面は理解できましたが、利用者の面で大きな大会を見た子どもたちがスポーツをしたいと思って、どこでやるかというところと大学スポーツか企業スポーツといった施設があります。ソフト面でいえば、スポーツクラブや、地域総合スポーツクラブに関する人たちの利用が見込まれます。ラグビーでも今回全日本選手権で東京のクラブチームが出場していましたが、レベルの差がかなりありました。地域総合スポーツクラブでやっていくのか、学校スポーツとして利用するのかをはっきりしていかないといけないと思います。</p> <p>また、ハードな面だけの予算確保ではなく、施設の利用運営であるソフト面での予算も確保してほしいと思います。</p>
<p>日建設計（小谷）</p>	<p>ハード面の予算だけではなく、ソフト面にももっと力を入れてほしいというご意見でした。</p>
<p>事務局（野呂部長）</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ハード面についても、新しい施設だけではなく、今ある施設も直して使っていかなければならないので、予算がいきます。</p> <p>ソフト面では、補助金を各団体様にお願いしたり、市の直接の事業を行うことで、スポーツ振興を図っております。</p> <p>全体のスポーツに使える予算は多少枠があるため、今の津市の現状からみても、大きく拡大していくことは難しい部分がございます。</p> <p>ある程度の部分は健康増進や競技スポーツで確保してやっていくことが考えられます。この限られた予算をいかに有効に使うかといった視点でいろいろ見直しをしながら考えていきたいと思っています。</p> <p>また、いろいろとご協力いただきたいと思いますどうぞ宜しくお願いいたします。</p>

<p>津市スポーツ空手団空手道（新名氏）</p>	<p>津市スポーツ少年団空手道の新名と申します。</p> <p>アスリートモールについて少し意見がございます。</p> <p>非常に立派な施設であると思います。しかし、広いアスリートモールでメインアリーナとサブアリーナを繋ぐことは、良いと思いますが、出入り口が一箇所に集約されているので、2階の観客席に向かう際、非常に混雑するのではないかと思われます。</p> <p>空手の全国大会の場合ですと、選手と観客を合わせて大体3,000人から4,000人規模の人が集まりますので、いつも出入り口で溢れてしまい、困ることがあります。外から2階の観客席に直接アクセスできる入り口がないと厳しいと思います。</p> <p>色々な施設を見ていても、例えば福岡のマリンメッセは、広い通路が設置されていても、廊下で選手がアップをしたり、観客が溢れて外に出てしまい陣取ってしまったりとすることが多々あります。全館おさえているとまだ良いのかもしれませんが、フィットネスジムやプールを利用する一般の方も、同じ出入り口を使わなければならないと、一般利用者の通路を確保しなければならないということで、大会を開く側から、苦情がくると思います。</p> <p>そういった事もあると思いますので、すべてをアスリートモールに集約してしまうのはどうかと思います。</p> <p>逆に武道場や、フィットネス、プールの施設は外からも入れるようにするとか、アスリートモール内でゾーン分けが出来るような仕組みができていような場所を考えていただきたいと思います。</p>
<p>日建設計（渡辺）</p>	<p>大変貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>今おっしゃったことは、課題として認識しております。今後、設計を進めるなかで、もう少し改善を図りたいと思っております。</p> <p>アスリートモールの大きさは、幅10メートル、長さ90メートルくらいで、かなり広い空間になっておりますので、観客の出入りでの大きな混雑はないと考えております。しかしながら、出入り口の位置については、現状のようにメッセとの間にエントランスを構えておりますが、そればかりではなく、例えば北側の駐車場からアプローチしやすくするように入り口を設けたり、それから一般利用と大会でのゾーン分けの際にフィットネスへの単独の出入り口のあり方を、今後施設全体の管理・運営を含め、十分に検討して織り込んでいきたいと思っております。</p>

津陸上競技協会(小方氏)	<p>陸上協会の小方です。</p> <p>屋内スポーツ施設の説明会を聞くにあたって、「開放性」とか「複合性」というお話がありましたが、室内のスポーツの競技だけではなく、陸上競技も体育館で陸上の練習が出来るような施設を考えていただきたいと思います。</p>
事務局（野呂部長）	<p>陸上競技も室内が利用できるよというお話ですが、今検討しておりますのは、メインアリーナの観客席の外周に、1周 300メートルくらいのランニングスペースを設けたいと思っております。</p> <p>あとは、この広い敷地の外周を走れるように1周 1.2キロメートル程のランニングスペースをつくっていききたいと思います。</p> <p>メインアリーナはかなりの大きさがございますので、スペースをどう有効に利用するかによっては、屋内での運動も考えられると思います。</p>
日建設計（小谷）	<p>ありがとうございます。</p> <p>まだ、ご質問がたくさんあると思いますが、時間となりましたので、終わりにしたいと思います。改めて、ご意見やご質問がございました方は、事務局のほうまでお願いいたします。</p> <p>最後に本日のシンポジウムの締めくくりといたしまして、設計検討委員会の委員長であります木下先生から一言頂戴したいと思います。</p> <p>木下先生お願いいたします。</p>
木下委員	<p>本日は長時間お付き合いいただきまして、ありがとうございました。4部構成でお話させていただきましたが、その中でも様々なご意見をいただきました。すべてのご意見を反映させることは難しいとは思いますが、市民の皆様が親しまれるよう、ひとつずつ丁寧に検討していき、設計を詰めていきたいと思っております。</p> <p>まだ基本設計の段階であるということで、基本的な構成はある程度確定してきておりますが、細かい点はこれから詰めていきますので、引き続き設計検討委員会でそれぞれの専門の立場から意見を述べていきたいと思っております。</p> <p>各スポーツの協会の方々には、それぞれヒアリングという形でご意見をいただく機会を設けますので、是非その際はお越しいただけ</p>

日建設計（小谷）	<p>ればと思っております。</p> <p>今回シンポジウムという形で機会を設けさせていただきました。こういった機会は今までの施設づくりではあまりなく、設計の途中の段階で皆様に聞いていただき、ご意見を伺うということは貴重な機会を設けることができ、非常によかったと思います。</p> <p>市民の方々に施設をつくるプロセスを知ってもらうことは大切なことですので、また機会があれば皆様に公開していければと考えております。</p> <p>単なる箱物ではなく、血の通った質の高い施設をつくっていければ良いなと思っております。</p> <p>最後になりますが、本日は誠にありがとうございました。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>では、これもちまして本日のシンポジウムを終了させていただきます。</p> <p>本日皆様からいただきました貴重なご意見は、事務局他関係者の皆様と十分協議しながら、今後の詳細設計に反映していきたいと思っております。また、本日ご質問、ご意見があります方は、改めまして事務局の方に行っていただければ、対応させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>では、長時間にわたりまして、本日ご参加いただいた皆様、委員の先生方、誠にありがとうございました。</p>
----------	--